

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「大学院ファカルティ・デベロップメント部会」による全学的授業改善に則った、授業方法の改善を行う。	→学生の授業内容に対するアンケートの満足度指標。	B	B	/	/	/
2. 大学院英語教育を強化するために、英語のみによる学位コース設置に伴い、英語のみによる授業科目を開講する。	→開講科目一覧。	D	C	/	/	/
3. 複数教員による研究指導及び研究進捗状況確認のため、中間報告会などを行う。	→複数教員が参加する中間報告会などの開催状況。	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 学生に順次性のある履修を促すために、4月に指導教員による履修指導を行った。一部の学生は必ずしもこの指導を遵守しておらず、今後方策を検討していかなければならない。FD講演会は理工学部と共催で年間2回行った。また学生による授業評価は全ての開講科目で実施された。英語による授業は開講していないが外国人研究者によるセミナーを開催した。また大学院海外研究助成金の支援を受け、国際学会で発表する学生に対しては英語プレゼンテーションセミナーへの参加を促した。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスと授業内容の整合性は不十分であり、教員にアンケート等を取り、シラバスとの整合性の重要性を認識させる必要がある。

★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明)2010年度の開講講義科目で試験を導入している科目は53科目中11科目であった。他の科目ではレポートと平常点に基づき成績評価されている。成績評価体制は整備されている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <input type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) コースワークに対しては授業評価アンケートにより検証している。リサーチワークについては生命科学専攻、情報科学専攻、数理科学専攻で中間発表会を行い、中間評価を実施している。他専攻でも中間評価の体制整備が望まれるが、実現していない。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

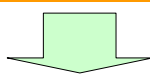
★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○自己点検・評価のとおり、シラバスに沿った授業実施や、リサーチワークでの厳格な成績評価について、今後も改善に向けた努力が望まれます。

○大項目6全体にいえることですが、「現状の説明」が具体的かつ率直でわかりやすく、問題点を直視する姿勢は高く評価できます。

【学内委員】

○より優れた学習指導を行うための履修指導を行っている点は評価できますが、全学生に対して徹底されておらず、今後のさらなる改善が望まれます。FD講習会や学生による授業評価は積極的に行われており、評価できます。英語のみによる学位コースの設置は、まだ実現に至っていないようですが、英語セミナーの開催などにより準備がなされているものと思われます。これについては、早い時期での実現が求められます。シラバスの内容と授業との整合性については、まだ不十分だと考えられるため、これについてもできるだけ早い時期での実現が求められます。教育成果の定期的な検証とそれに基づく改善は、一部の専攻分野で実施されておりその点は評価できます。できるだけ早い時期に全専攻分野で実施できるよう期待します。

○シラバスと授業内容との不整合は正す必要があります。また、試験を行っていない科目の方が多いですが、その妥当性を十分に検証する必要があります。

○大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明を加えられることが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1~6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 6.3.1(現状説明)
研究指導を円滑に行うため各専攻で研究指導の流れを作成し、2011年度中に公表する。
- ★ 6.3.2(現状説明)
コースワークについては授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法についてシラバスで公表している。